

Asian Population & Development

アジア

人口と開発

ISSN 0911-5684



1991・No.36

財団法人 アジア人口・開発協会 (APDA) 発行

目次

7th APMPD代表者会議

10カ国、百人が参加・韓国ソウルで開催

◇会議参加者

開会式挨拶

- ◆熱意を持って率直な意見交換を……………8
 韓国児童・人口開発議員連盟会長 チョン・ピョン・バク
- ◆人口問題の解決は即農村開発……………11
 (財)アジア人口・開発協会理事長 佐藤隆
- ◆「生活の質」を満足させるために……………16
 AFPPD事務総長 プランツ・プラタナコーン
- ◆貧困、人口急増など環境破壊の原因をとり除く努力を……………19
 国連人口基金事務局長 ナフィス・サディック

第六回日本国際保健医療学会総会のお知らせ……………24

セッションII カントリーベーパー

日本の人口転換とアジアの社会経済発展……………25

国際人口問題議員懇談会副会長 衆議院議員 阿部昭吾

南から南・北から南……………30

―人口・開発・環境―

(財)アジア人口・開発協会業務課長 遠藤正昭

(財)アジア人口・開発協会役員名簿……………33

APDA・日誌……………34

(財)アジア人口・開発協会発足並びに議員活動……………35

本協会実施調査報告書及び出版物

7th APMPD代表者会議



10ヵ国、100人が参加

韓国・ソウルで開催

財団法人アジア人口・開発協会（APDA）主催の「第七回人口と開発に関するアジア国會議員代表者会議（APMPD）」は日本、中国、インド、韓国、インドネシア、マレーシア、パキスタンなど十カ国の国會議員と専門家、国連人口基金（UNFPA）国際家族計画連盟（IPPF）など関係機関代表約一〇〇名が参加して、二月二十五、二十六の両日、韓国の首都ソウルで開かれた。韓国準備委員会が共催し、韓国国會議員、専門家、国会事務局が一体となって献身的な運営に当り会議成功の原動力となった。同会議では、昨年十月の「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第三回大会」で採択された「バンコク宣言」を再確認した。

“佐藤 隆理事長らがあいさつ”

開会式は午前十時三十分からウォーカーヒルホテル・国際会議場「コスモス」で行なわれ、チョン・ビョン・パク韓国児童・人口・開発議員連盟会長、佐藤隆・財団法人アジア人口・開発協会理事長、プラソップ・ラタナコーシAFPFD事務総長のメッセージをN・フェルナンドAFPFD副議長、サディックUNFPA事務局長メッセージを安藤博文UNFPA広報・渉外局長がそれぞれ別項のように挨拶した。

チョン・スー・パク韓国児童・人口・開発議員連盟副会長主催の昼食会のち午後一時三十分から国際会議場「コスモス」でセッション「人口と開発に関する研究」に入った。

“黒田俊夫・川野重任両博士らが

調査研究結果を発表”

先ず、「バンングラデシュ 人口・開発基礎調査」について黒田

俊夫・日本大学人口研究所名誉所長、「フィリピン 農村人口・農業開発調査」について川野重任・東京大学名誉教授、「人口と開発——韓国を経験」について崔仁鉉・韓国保健社会研究院副院長が、それぞれ権威ある発表を行ない、これに基く質疑応答が行われた。

同午後四時から、「日本の人口・開発・環境——アジアの経験——」について、黒田俊夫・日本大学人口研究所名誉所長の極めて示唆に富む発表があった。

“好評を博したAPDAのスライド”

このあと、例年好評のスライドを上映した。今年度の作品は、日本及びアジアの環境問題に焦点をあてた「日本の環境・人口・開発」を上映し、参加者全員から内容、構成について絶賛され、四カ国（日本語、英語、中国語、インドネシア語）版のスライドが、各国代表にプレゼントされた。

“阿部昭吾議員らがカントリーペーパーを発表”

二日目の二十六日は、午前九時からセッションⅡに入り「アジアの人口と開発問題——バンコク宣言の達成方策」と題する各国議員代表のカントリー・ペーパーの発表があった。

発表者は、日本・阿部昭吾、中国・王偉、インド・サット・ポール・ミッタール・マヘショワラパ、インドネシア・ケマス・バダルディン、韓国・ヨン・スン・シン、マレーシア・イブラヒム・アリ、パキスタン・ヌール・ヤーハン・パネザイ、フィリピン・レティシア・シャハニの八議員。午後は一時半からシンガポー

ル・セデック・サニフ、スリランカ・ネービル・フェルナンドの二議員の計十議員が十五分ずつ発表を行った。

“バンコク宣言を再確認”

午後三時から全体討議を行ない、各国議員が人口と開発について熱心に討議した。スリランカのフェルナンド議員から日本企業とのジョイントベンチャー誘致による途上国の雇用創出を促す提案があり日本議員はじめ各国議員が討議を行った。

二日間にわたる会議は、チョン・スー・パク韓国児童・人口・開発議員連盟副会長の閉会の挨拶により閉会した。



●会場での日本議員団・専門家
左から鹿熊(参)議員、阿部(衆)議員、亀井(衆)議員、川野博士、
三治(参)議員、水田(衆)議員、高桑(参)議員、黒田博士

會議參加者(敬称略)

●日本

佐藤 隆 (衆・自民、APDA理事長)
水田 稔 (衆・社会)
東 祥三 (衆・公明)
阿部 昭吾 (衆・進民)
亀井 久興 (衆・無)
鹿熊 安正 (参・自民)
高桑 栄松 (参・公明)
広中 和歌子 (参・公明)
三治 重信 (参・民社)

●中国

王 偉 (議員、AFP PD副議長)

Chen Mingguang (議員)

●インド

Sat Paul Mittal (上院議員、AFP PD副議長)

Mehendra Prasad (議員)

Mahe Rsharwappa (議員)

●インドネシア

Jailani Naro (国会副議長)

Kemas Badaruddin (議員)

●韓国

Jun Byung Park (韓国児童・人口・開発議員連盟 (C

PD) 会長)

Chung Soo Park (CPD副会長)

- Se Hyung Cho (CPD副会長)
Jeymoon Chung (CPD副会長)
Sang Mok Suh (CPD執行委員)
Young Shim Dho (CPD執行委員)
Young Ki Ahn (CPDメンバー)
Chul Su Hwang (CPDメンバー)
Young Soon Shin (CPDメンバー)
Sin Ok Kang (CPDメンバー)
Young Sook Park (CPDメンバー)
Jong Han Hahn (CPDメンバー)
Bong Coo Choi (CPDメンバー)
In Hak Yoo (CPDメンバー)
Sil Park (CPDメンバー)
Kyung Shik Shin (CPDメンバー)
Wha Soon Byun (韓国女性開発研究院主任研究員)
Son Ung Kim (漢陽大学 社会学科教授)
Sung Yeal Koo (延世大学 経済学科教授)
Sea Baick Lee (ソウル大学教授)
- フルーシム
Ibrahim Ali (議員)
- パキスタン
Noor Jahan Panazai (議員)
- ノルウェー
Leticia R. Shahani (上院議員)
Edward N. Matti (議員)
Jerome Paras (議員)

● シンガポール

Sidek bin Saniff (議員)

● スリランカ

Neville Fernando (スリランカ人口・開発議員連盟副会長)

M. L. M. Aboossally (プランテーション産業大臣)

● 専門家

黒田 俊夫 (日本大学人口研究所名誉所長)

川野 重任 (東京大学名誉教授)

崔 仁 鉉 (韓国保健社会研究院副院長)

● オブザーバー

安 藤 博文 (国連人口基金 (UNFPA) 広報・渉外局長)

V. T. Palan (国際家族計画連盟 (IPPF) ESEA OR地域事務所長)

● コーディネーター

青 木 洋子 (APDA事務局次長)

遠 藤 正 昭 (APDA業務課長)

後 藤 まき子 (APDA職員)

Puddy Punsalam (GCPPDプログラムオフィサー)

第七回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議

開 会 式 換 拶

熱意を持って率直な意見交換を



韓国児童・人口

開発議員連盟会長

チ
ョ
ン
・
ビ
ョ
ン
・
パ
ク

APDA理事長佐藤先生、AFPDP事務総長プランソップ・ラ
タナコーン議員、各国代表の皆様、来賓の皆様。韓国児童・人口
・開発議員連盟を代表して、ご参加の皆様にご心からの歓迎のご接
拶を申し上げますことは、私の大きな喜びでございます。また、
この機会をお借りして、この意義深い会議を成功させるためにご
尽力下さいました代表団の皆様や全ての組織に、感謝の意を表明
いたします。とりわけ、日本のアジア人口・開発協会が、人口と
開発に関するアジア国会議員代表者会議に毎年ご支援を下さり、
アジアの人口問題の解決に多大の貢献をして下さっていることに
あらためて感謝の意を表したいと存じます。

既に皆様もご存じのように、アジア地域には解決すべき問題が
山積しております。アジア・太平洋時代の二十一世紀を迎えるにあ
たって、我々は、多くの政治、経済、文化、および社会的な問題
と直面しております。中でも人口問題は、他のどの問題よりも優

先させねばならないと私は考えております。我々の住む地域が典型的な農業社会であったのはそれほど昔のことではありませんが、近年になって、食料不足をはじめとする深刻な問題に直面し、貧困、病気、社会的不平等などを引き起こしています。こうした問題の底には、先進工業国をはるかに上回る人口増加率があります。効果的な政策を開発、実施しない限り、こうした人口問題の解決は困難であると私は確信いたします。地域内で政治の指導的立場にある方々を中心として力を結集し、人々の福祉と生活の質の向上を図り、経済的繁栄を達成することによって、人口問題を解決しようと努力を続けているのも、そのためなのです。

各国代表団および来賓の皆様！

大韓民国に於いても、人口増加の問題が国家の発展の大きな障害となっていることは事実です。一九六二年以来、経済開発計画の一部として家族計画の活動が継続的に実施されており、良い結果を得ております。しかし工業化と都市化の流れは、都市部への人口の集中や環境破壊といった多くの社会問題の発生を招きました。こうした問題を議会レベルで解決すべく、一九八九年に韓国児童・人口・開発議員連盟（C P D）が結成されました。以来短期間ではありますが、韓国C P Dは、数々の活動を行い、目的の達成を図っています。C P Dが今回の会議の受け入れ組織となりましたことも、目的達成に向けた我々の努力と必ずや結び付くものと確信しております。

皆様！

第七回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議の目的はまさに、人口と環境に関する多くの問題の解決に向けてこの地域の国々の協力態勢を強化することにあります。従いまして本会議では、地域の人口問題の解決に関するバンコク宣言の実施、およ

び人口と開発に関する方向づけについて、参加者の間で十分な討議が交わされることでしょう。昨年十月にバンコクで開催された第三回人口と開発に関するアジア議員フォーラム（AFPPD）大会に於いて採択された宣言には、アジアの国々の人口問題の解決を見いだすにあたっての重要な方策が含まれています。この宣言をしかるべく実施に移して行けば、我々の前に存在する多くの疑問に対する答えを導き出し、ひいては地域の平和と繁栄の基盤となることでしょう。この状況を踏まえて、参加者の方々には熱意をもって率直に意見を交わして下さることを切望し、同時にこの会議がそれぞれのお国での人口問題の解決へ向けた足掛かりとなることを、心より願うものであります。

最後に、短い期間ではありますが、皆様のソウルでの滞在が意義深いものであること、そして、この会議が皆様にとって、大韓民国の人口政策を話し合う良い機会となりますことを心より願っております。

ありがとうございました。

人口問題の解決は即農村開発



財団法人アジア人口・開発協会

理事長 佐藤 隆

チョン・ビョン・パク大韓民国児童・人口・開発議員連盟会長、ご列席の皆様、「第七回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」を開催するに当たり、アジア人口・開発協会を代表し、一言ご挨拶申し上げます。

はじめに、ご尽力を賜りました韓国国会議員、学識者の方々、また特に共催機関として格別のご協力、ご指導を賜りました韓国準備委員会の方々に心から感謝と御礼を申し上げます。

また、アジア各国より公務ご多忙の中をご参集下さいました国会議員各位、一九八二年の本協会設立以来、多大なるご指導とご支援を戴いてきましたUNFPA、IPPFはじめ関係各位のご協力に心より御礼申し上げます。

本会議は、アジア諸国の人口と開発に携わる国会議員の活動に資するため、第一回、第二回会議を一九八五年、八六年に東京で、八七年から九〇年までに第三回から第六回会議をタイ、マレーシア、フィリピン、インドネシアでそれぞれ開催し成果を上げて参りました。

さて、この度、農産物問題に於ける良きパートナーであり食料供給体制という点からは我が国と同じように甚大なる関心を抱いておられる大韓民国で本会議を開催できますことは、非常に意義のあることであり、ありがたい因縁と考えております。特に、近

年大韓民国は、目覚ましい経済発展を遂げられ、それに伴う社会開発も充実し、人々の生活も豊かになり、人口転換に成功されておられますが、一方、高齢化社会への対応、食料の安定的供給などについての関心も高く、これと有機的な関連を有する「人口と開発問題」に真剣に取り組んでおられ、心から敬意を表します。

私の議員生活も明年四半世紀を迎えようとしております。この間アジアの「人口と開発問題」に取組み、これらを通して志を同じくする議員諸氏の知己を得、相互に協力し合って参りました。ご高承の通り、「人口と開発問題」の解決に当っては、それに関連する多岐にわたる諸問題、即ち、食糧、地球環境、資源・エネルギー、経済・社会開発、更に、都市化と農村開発といった人口分布の問題、高齢化といった人口構造の問題、雇用、教育機会、女性の地位、児童の権利等の諸問題間との調和のとれた解決が求められております。これらは人類の平和と繁栄にとって是非とも解決していかねなければならぬ課題であり、しかも一朝一夕に解決し得ない課題でありますので、息の長い取組が要求されます。こうした地球規模での対応を迫られる問題の解決に当たっては一国のみでは処理でき得ないことは論を俟ちません。

私は夙に『人口問題の解決即ち農村開発である。』と申しております。農山漁村の活性化を図って行くべきであります。ご高承の通り、日本は一極集中のあまり、農村の過疎化と都市の過密化問題に悩んでおります。地方の活性化を図るためのプロジェクトもレジャー施設が中心であるため新たな環境問題を惹き起し、見直しを迫られております。私は地域全体の雇用機会の創出、地域社会の活性化の為に農業を基幹とする農村開発が是非必要であると考えております。従いまして、農村開発を進めるために技術・投資等の面から国際協力というものがさらに実効をあげ得るよう

考えなければならぬのではないでしょうか。いずれにしましても、一国の農業というものは地域の開発や環境の保全と深い関わりを持っているものであり、このためにも各国が自国で供給できる基幹的な農作物については、その生産に力を注いでいくという自給体制、その上で足らざるものは安定的な輸入を図っていくという体制を原則として、生活の安定、地域の活性化を確保すべきです。そうでなければ、国の発展も、世界の平和もないと思います。

都市への人口集中の傾向は日本ばかりではありません。今世紀末までに人類の半数近くが都市に居住するようになり、二十一世紀の世界は、概ね都市化された社会となると言われております。現在アジア地域では N I E S (ニーズ) に続く A S E A N 諸国、殊に D A E (ダイナミック・アジア・エコノミー) と呼ばれる国々の世界経済に於ける台頭が見られます。中でもタイ国では、N A I C (ナイク) といわれる、農業に片足を置いた複線型の工業化が進められております。この背景には、就業人口の五八・三%が農業人口であるという現実があります。タイ国は食糧自給率二〇%、生産の半分を輸出に回せる農作物の輸出大国であり、この為同国の現象は必ずしも他のアジア諸国に当てはまるものではありませんが、豊富な一次産品を原料にできる農水産加工型の工業化を進めることは、人口分布問題の解決の一助となるのではないのでしょうか。

ところで、世界の食糧生産は、かつてないほどの高水準を維持しているにも拘らず、その供給不安定な地域もあり、今日なお、労働人口では七億三千万人以上が十分な食事をすることができず世界人口の実に二〇%、約一〇億人の人々が貧困と飢餓に喘いでいると言われております。食糧生産の増大は、生産力の驚異的な

向上によるものであり、人口の増加は世界のほとんどの地域での一人当たり耕地面積の減少を意味します。この増大する人口と利用可能な耕地の減少が森林の破壊を招く結果ともなります。

食糧需要は、人口と所得の増加に応じて増大し、その消費形態も変化します。今世紀末には、約一三億人の人口増が見込まれています。一方、「環境と開発に関する世界委員会」の指摘によると、食糧需要の増加要因のうち収入増の占める割合は、発展途上で三〇、四〇%、工業国では約一〇%となり、このような事態に対応するためには、今後数十年に亘って地球上の食糧供給機能を年率三、四%高めなければならないとされております。

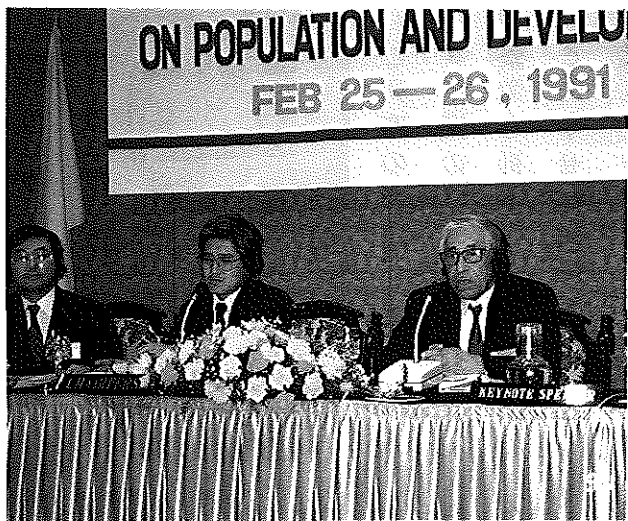
地球全体の食料供給機能を高めるには、生産量の増加だけではなく、流通の問題があります。食糧市場の改善と輸送能力の強化を進め、食糧政策の重点を食糧の不足している国、地域に移していく必要があります。

このような広範な検討を進める為には、お互い政策に携わるもの同志がこのように一堂に会し意見や経験の交換を行うことが必要であると思います。

今回日本からの調査研究の発表に関しましては、当協会が行ないました人口と開発基礎調査、農村人口と農業開発調査等、それぞれバンングラデシュ国およびフィリピン国のご協力を得て行いました調査の発表を致します。

これら調査にご協力を賜りました各国の方々に、ここに改めて感謝申し上げる次第です。

目下湾岸戦争の最中において国際社会は昏迷を加えており、あらゆる面で新たな秩序、協調が求められております。また、高度情報化社会は、ますます国と国との国境を狭め、相互影響を強めており、一つの問題に対応するにも常にグローバルな視点が求め



フィリピン農地改革について
発表する川野重任博士(右)



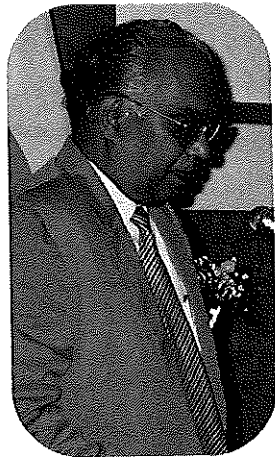
日本及びバングラデシュの研究成果を
発表する黒田俊夫博士(右)

られております。この中でも、「人口と開発の問題」は、多岐にわたる分野の学際的解決を要するものであり、お互い政策に携わるものは、常に、各分野の識者の意見に耳を傾けながら、勇気をもって行動を起こして参らなければなりません。

一口にアジアと言っても、民族、宗教、文化等々多様を極めております。しかし、お互いの信頼関係がアジアとしての共通項を作り上げて参りましたし、また、今後とも作ることができましよう。そのためにも先ず、「二十一世紀に向けた食料、環境などを含む「人口・開発」の諸課題を説明して参ろうではありませんか。それがお互いに与えられた使命です。

本会議は二日間の限られた短かい時間の中ではありますが、活発な討議を行なって戴きましたら主催者としてこの上ない慶びでございます。

「生活の質」を満足させるために



AFPFD

プラソップ・ラタナコーン

(AFPFD副事務総長

ネービル・フェルナンド代読)

ご列席の皆様、

タイ国の国会議員および友人を代表し、ご列席の皆様のご幸せとご繁栄を祈る気持ちをお伝えいたします。スワディー。

この幸せな時は、私にとって、三つの「初めて」の記念です。美しいソウルの町を初めて訪れたこと。

AFPFDの事務総長としての、初めての公式行事であること。そして、

報告書提出後、一九九一年初めての外国旅行であること。

本会議は、一九九〇年一月一八日の『バンコク宣言』実施三年計画の出発点です。宣言は、次のことを明確に打ち出しています。

- 一、人口、環境、および持続的開発。
- 二、女性の役割と地位。
- 三、高齢と若年の従属人口。
- 四、保健衛生、母親と子供の健康、および家族計画。
- 五、ますます「行動するアジア」の中での、アジアの国会議員としての役割と協力。

楽観的かも知れませんが私は、「良いスタートが切れれば、半分は成功」だと思っています。世界の人口の半分以上を占めるアジアの人々の福祉という目標が達せられることを、私は心から願

っています。

一年で最も楽しく喜びに満ちた、クリスマス、新年、中国の正月という三つの行事が済んで、人口と開発のための諸計画の分野で明るく豊かな将来への希望がふくらんでいる今、私たちが行動を起こし、努力して満足させなければならぬこと、つまり、「生活の質」ということを私は考えています。それは、

- 一、健康でなければ、生活は活気あるものとはならない。
- 二、認識があれば、一般からの参加が得られる。
- 三、NGOへの参加は、成功への道である。
- 四、議会人としての活動の役割。
- 五、目的達成のためには、公的機関および専門家のための教育と訓練が重要な役割を果たす。

皆さん、

今申し上げたことをまとめてみましょう。

Health (健康) の H
Awareness (認識) の A
Participation (参加) の P
Parliamentarians (議会人) の P
そして

Education (教育) の E

最後のEをYに変えればHAPPYという言葉になります。

“Y”はYou(あなた)のYです。古くから言われる通り、

あなたに出来る良いことをすべて行いなさい、

あなたに出来るすべての手段で、

あなたに出来るすべての方法で、

あなたに出来るすべての場所で、

あなたに出来るすべての時間に、

あなたに出来る限りの多くの人のために、
何でもあなたに出来る限り。

この特別な機会をお借りして、タイ国の国会内に既に事務局が設置されましたことを、皆様にお知らせ申し上げます。メンバーや友人の方々は、いつでもどうぞお立ち寄り下さい。何なりと役に立てるかと思存します。私も常に待機しておりますのでご連絡下さい。宛て先は、バンコク市、国会議事堂内、上院議員 プラソップ・ラタナコーン (Senator Prasop Ratanakorn, Parliament House, Bangkok) で届きます。

一九九一年という良き年にあたり、事務局は、ニューヨークの UNFPA、バンコクの ESCAP、および APDA とグローバル・コミティー、そしてアジアの全ての国々と国会と協力し、バンコクに於ける第三回総会の報告書に定められた、人口と開発のための目標の達成への努力を続けたいと思存します。

最後になりましたが、友人の皆様のご支援に心より感謝の意を表させていただきます。タイ国におります友人および APDA の同胞と共にこの会議の成功を願い、皆様の行動が人類の福祉となりますよう願っております。

善意は、失敗することのない唯一の投資です。

皆様の幸せを祈ります。

ありがとうございました。

貧困、人口急増など環境破壊の 原因をとり除く努力を



国連人口基金事務局長

ナフェイス・サデイツク

(国連人口基金広報・渉外局長

安藤博文 代読)

まず最初に、この会議を組織なさったアジア人口・開発協会および韓国児童・人口・開発議員連盟に、お祝いを申し上げます。田中、佐藤、両国会議員の指導の下で同協会は、この問題に関するアジアの議会人の協力と提携を喚起する活動の先頭に立ってきました。

一九九〇年代に於いては、歴史上のどの一〇年をも上回る急速な人口増加が見られるでしょう。世界の人口は、毎秒三人、毎分一八〇人、毎日二五万人の割合で増え続けています。一九九〇年代には毎年、フィリピンと韓国の人口を合わせた数に相当する九千万ないしは一億という数の人口が増えてゆくこととなります。一〇年間では、中国の人口に匹敵する一〇億の人口増加ということになります。これらの出生の九〇パーセントを越える数が、発展途上国で発生するのです。

アジアに於ける人口増加は、アフリカや南米を下回ります。これはアジアの国々の強力が効果的な人口プログラムの成果と見て良いでしょう。しかし、元来の人口基盤が非常に広いため、アジアの総人口は今後もしくは早くは急速な増加を続けると思われるでしょう。現在三一億人の人口は、今世紀の終わりには三七億に届くでしょう。これに無頓着ではいられません。昔ながらの、しかも現在も続いている人口問題を解決するために、新しい道を探索しな

ければなりません。さらに、老齢人口の割合が増加しているという新しい局面が、これからの二〇年間の重要な問題となることも認識しなければなりません。地域内のいくつかの国々では急速かつ大幅に出生率が低下しており、地域全体としても下降線をたどっています。全体の出生率は、一九六〇年には女性一人当たりの子供の数（TFR）が五・七一人であったものが、一九九〇年代には三・二六人となりました。東アジアでは、五・三五人から二・一九人へと減少しています。

しかし南アジアでは、いまだに女性一人当たりの子供の数は四・四人であり、人口増加率も二・三パーセントと急速です。ほとんどの国の政府が、人口増加率を鈍化させ、人口全体のバランスを取ろうという決意を表明して努力しているにもかかわらず、これが現状なのです。概算では、この世界でも最も貧しい地域のひとつに於いて、しばらくの間は、年に二千五百万から二千八百万人の人口が増えることとなります。

アジアの人口の約七〇パーセントが農村部に住んでおりますが、ここでは貧困と急速な人口増加が相俟って、直接的な森林破壊や、土壌や水資源の崩壊を招くという事態が多々発生しています。既に土地の保有は少なく、さらに減少が続いています。こうした状況はどちらもが、農村地帯の従来の文化の基盤を揺るがし、その結果人々は止むことなく大都市へ向かって行くのです。

二〇二〇年には、アジアの人口の半分が都市部に住むことになるとでしょう。都市部に於ける工業化と消費の増大は、かつてない速さで進んでいます。これは発展の兆候としては歓迎すべきことであります。しかし、同時に好ましくない状況をももたらしています。アジアの都市部の人口の約半数が、スラムまたは不法居住地に住んでいるのです。こうした人々は、健康、教育、しかるべ

き住居などはおろか、基本的必要性を満たすだけの算段さえ持たないのです。それと同時に、地球上の工業汚染の中でアジアの国々から発生しているものの占める割合は増加しており、今後とも増加し続けることでしょう。

急速な人口増加、農地の崩壊、都市の増大などが続くことによって、増加し続ける人口に食料を供給しようというアジアの努力が脅かされています。過去二〇年間にわたり、アジアの食料生産は大幅に向上しました。米の生産は、一九五〇年には一億五千万トンでしたが、それが年間四億五千万トンになっていきます。一九五〇年には一人当たり一一〇キログラムであったものが、現在は一五〇キログラムということになります。しかし、人口の増加に對処しながらこのレベルを維持するためには、二〇〇〇年には五億五千万五百万トン、二〇二五年には六億七千五百万トンの生産を得なければなりません。

現時点での努力目標として我々はまず、環境破壊を重大な関心事としなければなりません。しかし同時に、この危機の原因に對して、直接的かつ本格的に働きかけて行かねばなりません。貧困と急速な人口増加もその対象となります。

人口増加率を鈍化させること、中でも増加率の高い国や地域での鈍化を図ることは、開発戦略を成功させるための不可欠な要素です。これまでの二〇年間の人口問題との取り組みの中で得られた最も明確な教訓のひとつとして挙げられるのが、人口増加率を緩やかなものにするための最も優れた近道は、女性の地位の向上、教育の普及、保健衛生や家族計画の促進などを通じて人的資源を開発することである、ということでした。こうした分野のプロگرامが、その他の必要な改革の先鞭をつけることになるのです。

このことは、アジアの多くの国々、特に韓国において、人口と

家族計画プログラムが成功していることに良く表れています。韓国では、一九七〇年には女性一人当たりの子供の数（TFR）が四・一であったものが、一九九〇年代初頭には一・六にまで減少しております。この抜群の実績は、国としての家族計画プログラムが大いに効果を発揮した結果と言えるでしょう。この点から見ても、ソウルでこの会議が開催されたことは、特に適切であったと言えましょう。

人口プログラムを成功させることは、地域社会の中の全ての人の人間としての価値を確認することを意味します。チャンスさえ与えられれば全ての人は、最も貧しい人でさえも、自らの生命に關する責任を負うことが出来る、という前提の下に立っているのです。

社会的投資の中でも、女性に直接の効果を及ぼすものが優先されなければなりません。子供を産むことに關して発展途上国の女性たちは、先進国の女性のほとんどが当然としているものと同等の力を持たねばなりません。教育は、単なる識字教育に止まってはなりません。女性の教育と、出生率の低下の間には密接な關係があるのです。女性の健康を考える時、子を産む者としての健康に重点を置くべきですし、適切な家族計画を整えて、女性が望んだ場合はすぐに利用出来る態勢が整っていなければなりません。

この意味合いに於いて私どもは、南アジアで一九九〇年が女兒の年とされたことに注目し、高く評価します。このような先駆的構想は、女性の地位を向上させることに役立つものであり、またアジアに於いて近代的家族計画の方法を持たない女性の数（中国を除き、いまだに五〇パーセントにのぼる）を減少させ、ひいては合間において妊娠することにより女性の健康を保護する方法ともなるという効果をもたらすのです。

一九九〇年一〇月にバンコクで開催された人口と開発に関するアジア議員フォーラム第三回総会で採択されたバンコク宣言は、アジア地域に於ける年間人口増加率一パーセントを二〇〇〇年までに達成という、一九八一年の北京大会で当初採択された目標を繰り返したものです。これを不可能という理由は全くありませんが、強力で一貫した政治による支援態勢を基盤とした、多大の努力が必要です。

一九八九年には、七九カ国の政府関係者、国会議員、および専門家を擁して、二十一世紀の人口に関する国際フォーラムが結成されました。このフォーラムは、全ての国に対し、二〇〇〇年までに人口中位推計を達成するにあたっての財源を確保するためにあらゆる努力を注ぐことを求めるものです。人口に関する主要活動のために、年間総額九〇億ドル、つまり現在の経費四五億ドルの倍額が必要なのです。

社会的投資の重要性、特に女性の役割と地位に注目を集めるためには、また、より緩やかでバランスの取れた人口増加という目標を達成するためには、国会議員の役割は非常に重要です。皆様は立法府の議員であると同時に、地域社会のリーダーでもあるのです。皆様がお話しになること、またそれ以上に、皆様の日常の行動は、選挙区の人々の姿勢と行動に多大の影響を及ぼします。

これと並んで、人口問題に立ち向かい解決するための財源の動員にあたっての皆様の役割も、同様に重要性を持つものです。二〇〇〇年までに必要とされる年間九〇億ドルの費用のうち、半分は国際社会が、残りの半分は発展途上国自身が調達することになるでしょう。国家としての開発政策と立法の中で、人口問題にしかるべき重点を置き、また開発に関する決定はすべて人口に影響を及ぼすことを念頭に置くことは、皆様の責務であると言えます。

よう。

本会議での話し合いによって、一九九〇年代の人口問題と正面から取り組むにあたっての皆様の決意がさらに強力なものとなりますよう、願っております。UNFPAはひき続き態勢を整え、皆様と協力し、でき得る限りのお力になれるよう願っております。

第六回日本国際保健医療学会 総会のお知らせ

標記総会を別記要領で開催いたします。世界のすべての人々の健康とよりよい国際保健医療協力をめざして活動や研究に取り組んでおられる多くの方々から、幅広く学際的な演題発表を募集いたします。

記

日時..一九九一年八月二十四日(土)・二十五日(日)

会場..国際協力総合研修所(東京、市ヶ谷)

演題申込書締め切り..一九九一年四月三十日(火)(当日消

印有効)

抄録締め切り..一九九一年五月三十一日(金)(当日消印有

効)

△応募要領と演題申込用紙請求先▽

〒一六二 東京都新宿区戸山一ノ二十一ノ一

国立病院医療センター国際医療協力部気付 第六回

国際保健医療学会総会事務局

TEL..〇三(五二七三)六八二八

FAX..〇三(三二〇五)七八六〇

セッション II カントリーペーパー

日本の人口転換とアジアの 社会経済発展



国際人口問題議員懇談会副会長

衆議院議員 阿部 昭吾

尊敬する議長、発言の機会を与えていただき感謝します。私は今年で四分の一世紀の間議員生活が続けてきましたが、我が国会の「国際人口問題議員懇談会」の佐藤隆議員の呼びかけをいただいて議員連盟結成の当時から参加してまいりました。私の議員活動の中で「国際人口問題議員懇談会」の活動は最も意義深く誇りに思っているものであります。

日本においては、人口と開発に関する議員連盟の活動は、お互い激烈な選挙を競い合わなければならない立場からは選挙にはプラスにはならない。票にはならない活動だといわれておりますが、私の最も尊敬する佐藤隆先生は各国の国会議員の皆さんと協力し人口問題に全情熱を燃やしてこられました。私は佐藤隆先生の「人口と開発」に傾注する政治家としての熱情に対し、非常な感銘を覚えているものであります。

さて、日本の社会経済的な発展と人口転換についてお話し申し上げたいと思います。ご存じのとおり人口転換は多産多死の社会から少産少死の社会への移行を意味しております。日本の場合、この人口転換の過程と社会経済的発展の過程はほぼその軌を同じくしております。学問的には多様な条件がそこにあり、人口転換をもって必然的に社会経済発展の指標とすることには異論もありません。しかしながら重要なことは現在、社会経済発展を遂げている

る国々は、人口転換の過程においてもほとんどその人口転換を成し遂げているか、または成し遂げつつある国々であるという事実です。少なくとも、人口の急激な膨張は、社会経済的基盤を破壊し産業構造を歪め、資源の急激な乱費と貧しさを引き起こします。

したがって人口転換の過程をもって事実上の社会経済発展の指標とすることができません。人口転換指数というものは操作的な手続きを経て導き出されるものですが、ここでは出生率と死亡率を指標として考えてみたいと思います。

私の生まれました一九二八年ごろの、ここでは一九三〇年の数字をあげますが出生率は人口千人対三二・四、乳児死亡率は千人対一二四・一でした。この数字は現在のインドの出生率三一・九、フィリピンの三五・九とほぼ同じような水準です。また乳児死亡率はブータンの一二七、カンボジアの一二九とほぼ同じ水準です。我が国における一九三〇年の出生率とほぼ同じインドとフィリピンを人口転換の順位で見えますと、フィリピンの一八位、インドの二四位とアジア三九ヶ国のなかで中ぐらいの水準にいたわけです。

さらに乳児死亡率の水準で考えますと、一九三〇年当時の一二四・一という水準とほぼ同じ水準にあるブータンは人口転換順位三一位、カンボジア二九位と、現在のアジアのなかであまり人口転換の進んでいない国と同じ水準にあったということがわかります。したがって、一九三〇年当時の日本の人口状態を現在のアジアの水準で考えますと明らかにその平均にも達していませんでした。これが我が国のほんの六〇年ほど前の実情であったわけです。

我々の子供の頃の日本は、今のアジア諸国の平均的な現状より

も悪い状況にあったのです。私自身九人兄弟の七番目として生まれましたが、その中の三人は子供の頃に死亡しております。このような事例は私の子供の頃はけっして珍しい事ではありませんでした。

戦前は国策として「産めよ殖やせよ」というスローガンが掲げられておりました。しかしながらその当時の日本は、現在のアジアの諸国よりはるかに貧しかったです。

それが戦後四〇年間で急速に日本の人口転換が進みました。この歩みと日本の経済発展の歩みは重なります。例えば、自動車の全国への普及は一九三二年頃から一〇年位で、自動車は一九五五年～一九六五年頃、テレビはやはり一九五七年から一九五八年頃になります。また一九六五年頃には電話の普及を見えています。

このような経済発展のなかで出生率が減っていったというのは日本の国民の自発的な選択でした。国民自身が、社会に責任を持って育てることのできる範囲で、教育のできる範囲で子供を産むことを選択したのです。

多産という現実のなかでは実現不可能であったすべての子供達に高等教育を与えるという夢も、現在では果たされております。

この発展の過程のなかで日本は資本主義国家として歩んで来たと思われていますが、私は純然たる西歐的な意味における資本主義体制のもとで、この発展が遂げられたというわけではないと考えます。やはり日本がアジアの一員として持っていた農村的な共同体の思想を取り込んだ形で社会政策が行われてきたわけです。

純然たる資本主義であれば、労働者の要求によってしか有り得ない福利厚生などが、労使協調のなかでうまく取り入れられました。また、日本の発展は資本主義経済を前提としてはいしましたが、社会的利益や社会的公平というものも重要視していたわけです。

また、特に申し上げなければならないのは第二次世界大戦直後、一九四〇年代後半において農地改革が実施されたことでもあります。また労働組合法が制定され、労働基本権に関して諸制度が制定されていることを見逃すことは出来ません。

例えば、社会発展とともに各種年金、保険制度が拡充されてまいりました。国民年金と、政府が保険者となり民間企業の労働者を対象とした各種厚生年金等の公的年金制度が一九六一年に制定され、国民皆年金が実現いたしました。

また年金保険と並んで社会保障の重要な柱に各種医療保険制度があります。これも一九六一年より国民皆保険が実現し、医療サービスを少ない負担で受けることができるようになりました。それにより、労働者に対する雇用保険や労働災害保障制度、老人保健制度、生活保護制度等の社会保障制度も拡充されてまいりました。

日本においては、この社会的負担を担うことについて社会的な合意があったわけです。この意味で日本は社会主義的な政策を巧みに取り入れた資本主義社会のもとで、社会経済的發展を成し遂げてきたということができます。

現在日本では合計特殊出生率、これは女性一人が生涯で何人の子供を産むかということを示した指数ですが、これが一・五七となり、人口が増えも減りもしない水準である二・一を大きく下回り、社会的な問題となっております。

また日本の平均初婚年齢は男が二八・五歳、女が二五・五歳と晩婚化の傾向にあります。これにはさまざまな原因が考えられます。その一つに、大都市への人口集中による住居費の高騰と教育費の高負担があります。

ダブル・インカム・ノー・キッズという社会風潮が現れている

一方で、子供は三人欲しいが、教育費や住宅費を考えて二人に抑え、話相手や老後の頼りとして女兒を求める気持ちが強まっているという厚生省の調査報告もあります。

二つ目は、生活環境の変化にともなう結婚観の変化があります。女性の高学歴化により社会進出が増え、結婚年齢が高まったこと、また女性が経済的に自立できる社会になり、「必ずする」ものと考えられていた結婚が必ずしも「必ずしもしなければならぬ」というものではなくなった」ということも考えられます。

そして三番目に、女性が子育てをしながら仕事を続けられる社会環境がまだまだ整備されていないことがあげられます。

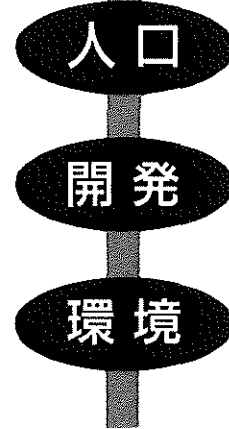
以上のように出生率の低下にはさまざまな原因が考えられますが、社会的に見て子供を育てることが困難な状態が解決されれば、日本の出生率は変化すると思います。

これもまたアジアのほかの国々の抱えている人口問題と同じく、広い意味での人口転換の過程のなかにある問題であると考えることができます。

この出生力の低下にいかに対応するかということは、日本に課された今後の課題であります。出生そのものは夫婦の選択に任せられるとしても社会環境の整備によって、この問題は克服できるものであろうと考えられますし、またその努力を行って参るつもりであります。

わずか六〇年前には日本も今のアジアの平均的な水準に及ばなかったのです。共に手を携えてこの問題の解決に向けて努力して参ろうではありませんか。

南から南 北から南



各国参加議員の主なる二日間にわたる討議内容を紹介しながら、会議をふり返ってみる。

まず、参加国間で人口問題解決に対する自信をもち始めた国と苦悩している国の明暗がはっきりした。インドネシアは、自国の家族計画、人口政策が予想以上に成果をあげていることを受け、一九八四年以来南の国（途上国）であるインドネシアがバングラデシュの人口・家族計画担当官を受け入れ研修を実施している。韓国も人口増加抑制で成功をおさめた国として自信をもち始めている。家族計画・人口政策が単に避妊具の配布中心から、母子保健水準の向上、人口の質の向上につながる社会福祉面の充実を計る段階に達した。

一方、一九七〇年代アセアン諸国で最も熱心に家族計画・人口政策を推進してきたフィリピンが、アキノ大統領就任以来、人口抑制策が思うように進んでいない。人口増加率が二・三％と経済成長率の一・九％を上回って

いる。

これまで人口抑制政策での先進国、シンガポールは、一九八七年に人口増強政策の導入で大転換を計った。同政策は、「もし養えるなら三人以上の子供をもとう」のスローガンを国民に示している。

インドネシアのように南の国が南の国へ人口・家族計画分野で国際協力ができるようになったことは画期的なことである。

現在アジア諸国は若年人口が多いのに雇用の機会が少ない。このことは、中東や日本へ労働者が流出することにもつながっている。各国議員は、これまでの日本の人口と開発分野の国際協力に感謝しつつも、「国内での雇用の機会の創出」につながる日本からの企業進出について熱い議論を展開した。

今回の専門家からの発表やスライドにもあった「環境」問題についても各国議員は熱心な討議を行った。韓国の議員からは、ソウル市内を流れる漢江が工場廃水により汚染されているが、その対策が思うように進んでおらず今後、日本をはじめ各国からの公害防止の国際情報交換ネットワークを設置したいとの要請があった。同様にフィリピンの議員から、フィリピンも公害・環境汚染に悩んでいる。ひとつはマニラ首都圏の環境汚染である。原因は一般市民によるもので、車の排気とごみである。もうひとつは、農村部の森林破壊である。これらは常に人口の過剰な増加と深い関係がある。フィリピンの議員は先進国に対してもうこれ以上途上国から木材を輸入しないで欲しいと要請した。

最後に今回の会議に参加しての印象を少し述べてみる。同会議もすでに日本、タイなどで七回開催してきた。今回の会議程、質疑応答での十分な討議ができたことはないように思った。日本議員も日本の国際協力のあり方に自国の反省と改善の意見を述べ同時に被援助国との協調にもふれた。公害の発生の防止策にいち早く取り組み組んだ日本について、日本議員はじめ各国議員情報交換ネットワークをつくろうとまとまったことは意義深い。

また、国際協力と同様に日本の投資を促す要請は、湾岸戦争が終結した今、中東に多くの労働者を送り出しているアジア諸国にとって何よりも国際協力となることと思う。会議での議論にとどまらず、即実行に移してもraitたい課題である。

表題にもあるように「南から南、北から南」途上国の中でも人口と開発分野での実施にあたり、インドネシアのように自信をもつ国が徐々にあらわれたことは喜ばしい。

本協会が日本政府の委託を受けて実施している調査研究はすでにアジアの約一〇カ国をカバーした。その研究成果が毎回同会議で発表され、さらに日本政府への国際協力の提言として提出されることは、将来のアジアの人口と開発問題解決に微力ながら役立っていると確信する。今回の会議開催にあたり準備にあたっていただいた韓国側議員はじめ事務局の方々に感謝をこめて。

(財)アジア人口・開発協会業務課長

遠 藤 正 昭

財団法人アジア人口・開発協会役員名簿

顧問・理事…田中 龍夫 (財)国際学友会会長

理事 長…佐藤 隆 衆議院議員

副理事長…前田福三郎 日本電波塔株式会社代表取締役社

長

理事 事…内村 良英 (社)大日本水産会会長

翁 久次郎 (財)厚生団理事長

鹿野 道彦 衆議院議員

川野 重任 東京大学名誉教授

黒田 俊夫 日本大学人口研究所名誉所長

小林 和正 日本大学人口研究所顧問

近 泰男 家族計画国際協力財団事務局長

斎藤 伸雄 和光証券株式会社取締役相談役

須之部量三 杏林大学教授

武田修三郎 東海大学工学部教授

西野 世界 国際協力事業団理事

花村仁八郎 (社)経済団体連合会相談役

広瀬 次雄 (社)全国ローヤルゼリー公正取引協

議事会長

房野 夏明 (社)経済団体連合会常務理事

本多 健一 京都大学工学部教授

森 一久 (社)日本原子力産業会議専務理事

依田 直 東京電力株式会社取締役副社長

監 事…斎田慶四郎 (社)エイジング総合研究センター監

事

平成二年五月二十八日 (敬称略・五十音順)

2月24日

「人口と開発に関するアジア議員フォーラム運営委員会」開催。

佐藤同フォーラム議長他3カ国、UNFPA、I PPF、GCPPD出席。

於 ソウル・ウォーカーヒルホテル会議室

2月25日
26日

「第7回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」開催。

於 韓国ソウル・ウォーカーヒルホテル会議場。

3月8日

「平成2年度日本船舶振興会補助事業完了報告書」提出。

事業内容 (1)出版「日本の人口・開発・環境——アジアの経験——」(和文・英文) (2)スライド「日本の環境・人口・開発」(日・英・中・インドネシア語) (3)資料収集・提供「アジアの人口都市化——統計集——」(和文・英文)

財団法人 アジア人口・開発協会発足並びに議員活動

<p style="text-align: center;">一九七三・十 (十・十三～二十八)</p>	<p style="text-align: center;">アジア人口事情視察団派遣(インド、タイ、インドネシア、フィリピン)</p> <p style="text-align: center;">国会議員(日本)</p> <p style="text-align: center;">岸 信介(団長)、田中龍夫、八田貞義、 佐藤 隆、山崎竜男、加藤シヅエ、 阿部昭吾</p> <p style="text-align: center;">その他</p> <p style="text-align: center;">Wドレーパー、J・タイディングス、花村仁八郎、 官庁、マスコミ関係等</p>
<p style="text-align: center;">一九七四・四・一</p>	<p style="text-align: center;">『国際人口問題議員懇談会』設立(会長・岸 信介) 衆・参超党派議員一一九名で発足。</p> <p style="text-align: center;">☆世界で初の試みである。</p>
<p style="text-align: center;">一九七四・四・二十五</p>	<p style="text-align: center;">『食糧と人口に関する宣言』：国連式典 (於・国連本部)</p> <p style="text-align: center;">宣言書署名・佐藤 隆</p> <p style="text-align: center;">○八月及び十一月の世界人口・食糧会議に先立ち、 各国政府に現実的且つ果敢な諸政策を採るよう 要請する五項目から成る。</p> <p style="text-align: center;">○人口・食糧問題解決の為、国連にリーダーシッ プをとることを要請した宣言文。</p>

<p>一九七四・八 (八・十九、三十)</p>	<p>「第三回 国際人口会議」 (於…ブカレスト) 総勢 四五〇〇人 齊藤邦吉(元厚生大臣)、八田貞義、佐藤 隆、 堂森芳夫、柏原ヤス、中沢伊登子 他</p>
<p>一九七四・十</p>	<p>「IPU列国議会同盟会議」 (於…東京) 参加国…六十五カ国 佐藤 隆代議士 「食糧と人口問題」ライス・バンク構想を 提唱。</p>
<p>一九七七・九 (九・三、十八)</p>	<p>中南米家族計画視察団(メキシコ、コロンビア、ブラ ジル、アメリカ、カナダ) 国会議員(八名) 岸 信介(団長)、佐藤 隆、住 栄作、 安孫子藤吉、和田耕作、阿部昭吾、福岡義登、 吉寺 宏、他 顧問団(十六名) 大来佐武郎、花村仁八郎 他 UNFPA二名、事務局五名 ○先進国にも、途上国にも、人口問題議員グループ を結成させるべく、各国立法府議員に呼びかけた。</p>

<p>一九七九・三</p>	<p>一九七八・十 (十・十六、十七)</p>	<p>一九七八・三 (三・二十八、三十)</p>	<p>一九七七・十二 (十二・五、十一)</p>
<p>IPOP国際会議準備委員会 (第三回) (於..メキシコ)</p> <p>日本側参加者..佐藤 隆 他</p> <p>○「宣言」の草案作成、○会議規定、○日程 etc</p>	<p>「IPOP国際会議準備委員会」 (第二回) (於..チュニジア)</p> <p>日本側参加者..佐藤 隆 他</p> <p>○開催国、○主催機関、○議題 etc、について</p>	<p>「人口と開発列国国會議員 (IPOP) 東京会議」 — 第一回 国際会議準備会議 —</p> <p>参加国..米、英、加、西独、インド、スリランカ、 メキシコ、ブラジル、コロンビア (九カ国 四十名)、日本 (十名)</p> <p>○運営委員メンバー国、○参加国、○議事日程、 ○予算</p>	<p>「人口と開発先進国会議」 (ロンドン、ボン、ベルリン)</p> <p>参加国..日、米、英、加、西独 (五カ国..十六名) 日本側..佐藤 隆、和田耕作、土井たか子</p> <p>○一九七七年九月の中南米視察に引続き各国立法府 議員への呼びかけ。</p> <p>○国際議員会議の開催について討議。</p>

<p>一九七九・八 (八・二十六) 九・一)</p>	<p>「IPOP国際会議」 (於…スリランカ) 参加国…六十四カ国 他、国連各機関、IPPF等 総勢 五五〇名 日本側…岸 信介、佐藤 隆、石本 茂、中村啓一、 柏原ヤス ☆人口問題議員グループ、結成国二十五カ国を超 えるに到ったので、UNFPAに働きかけ、コ ロンボで開催。 一、「コロンボ宣言」採択 この宣言により、一九八一年、アフリカ、 ヨーロッパ、アジアの各大陸での人口会議 が開かれた。 一九八一年 七月 ケニヤのナイロビに 於て 十月 中国の北京に於て 十二月 仏、ストラスブル に於て 一九八二年十二月 ブラジルのリオデジ ヤネイロに於て (予定)</p>
<p>一九八〇・九 (九・十、十三)</p>	<p>「資源、人口、開発に関するアセアン国会議員代表者 会議」 (於…クアラルンプール) 参加国…シンガポール、マレーシア、タイ、フィリ ピン、インドネシア(五カ国) 日本側…佐藤 隆、住 栄作、井上普方 ○日本はオブザーバーとして参加をし、北京会議 開催を提案。合意を取付けた。</p>

<p>一九八〇・十一</p>	<p>「人口と開発に関するアジア国会議員会議」 日・中打合せ （於…北 京） 佐藤 隆、井上普方 ○開催地北京への正式な可能性打診</p>
<p>一九八一・二</p>	<p>「人口と開発に関するアジア国会議員会議」 第一回運営委員会 （於…東 京） 参加国…日本、中国、インド、スリランカ、 マレーシア ○政治、イデオロギーの問題の除外について</p>
<p>一九八一・三・二十三</p>	<p>佐藤 隆代議士——国連開発計画（UNDP）と アドバイザー契約締結 ○一九七九年八月の「コロンボ宣言」に基づく、 地域IPOP会議の開催とそのフォローアップ を任務とする。</p>
<p>一九八一・六 （六・十九〜二十）</p>	<p>「人口と開発に関するアジア国会議員会議」 第二回運営委員会 （於…北 京） 参加国…日本、中国、インド、スリランカ 他 UNFPA 日本側…佐藤 隆、住 栄作、 土井たか子 他五名</p>

一九八一・十
 (十・二十七、三十)

「人口と開発に関するアジア国会議員会議」

開催地…中国北京市
 会場…人民大会堂

(1) 日本側出席者…

- 1、团长 福田 赳夫 (衆・自)
- 2、佐藤 隆 (〃)
- 3、住 栄作 (〃)
- 4、関谷 勝嗣 (〃)
- 5、桜井 新 (〃)
- 6、栗山 明 (〃)
- 7、石本 茂 (参・自)
- 8、田代 由紀男 (〃)
- 9、林 寛子 (〃)
- 10、井上 普方 (衆・社)
- 11、土井 たか子 (〃)
- 12、福岡 義登 (〃)
- 13、川本 敏美 (〃)
- 14、片山 甚市 (参・社)
- 15、有島 重武 (衆・公)
- 16、柏原 ヤス (参・公)
- 17、矢追 秀彦 (〃)
- 18、和田 耕作 (衆・民社)
- 19、柄谷 道一 (参・民社)
- 20、山口 敏夫 (衆・新自)
- 21、阿部 昭吾 (衆・社民連)

秘書数名

同時通訳者 三名

事務局 三名

<p>一九八一・十・三十</p>	
<p>(2) 議長・廖承志（中国全人代副委員長） 副議長・佐藤隆 他五名 司会・陳慕華（中国副総理） 起草委員・住栄作 他五名</p> <p>(3) 主なる日程</p> <p>① 第一日目（十月二十七日） ○ 福田元首相の特別講演 ○ 福田元首相、国連平和賞受賞</p> <p>② 第二日目（十月二十八日） ○ 黒田俊夫博士の 「日本の人口変動の傾向と展望」講演</p> <p>③ 第三日目（十月二十九日） ○ 住代議士によるカントリー・レポート発表</p> <p>④ 最終日（十月三十日） ○ 北京宣言採択</p>	<p>「人口と開発に関するアジア国会議員会議 第三回運営委員会」（北京会議最終日同地にて）</p>

<p>一九八二・二・十</p>	<p>財団法人アジア人口・開発協会 創立</p> <p>☆北京会議時の第三回運営委員会に於て、発議された「アジア議員フォーラム」の活動母体として創された。</p> <p>理事長…田中 龍夫（衆議院議員自民党総務会長）</p> <p>副理事長…佐藤 隆（自民党副幹事長）</p> <p>理事 事…住 栄作（自民党総務局長）</p> <p>〃 …花村仁八郎（経団連副会長）</p> <p>〃 …前田福三郎（日本電波塔（株）社長）</p> <p>監 事…斎田慶四郎（助家族計画国際協力財団 事務局長）</p>
<p>一九八二・三 (三・八～九)</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム暫定委員会」 (於…ニュージーランド)</p> <p>参加国…六ヶ国…中国、日本、マレーシア、スリランカ、インド、オーストラリア</p> <p>他機関…UNFPA、IPPF、AYCP</p> <p>日本側…佐藤 隆、井上普方 他人口問題専門家</p> <p>○一九八一年十月三十日付「北京宣言」に基づき「Asian Forum of Parliamentarians on Population and Development (A. F. P. P. D.)」の人口と開発に関するアジア議員フォーラムを正式に発足。</p> <p>○AFPFD発足に伴い、この委員会はそのままAFPFD第一回運営委員会となった。</p>

一九八二・八
(八・二一三)

「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第一回準備運営委員会」
(於・マニラ)

参加国…日本、中国、インド、スリランカ、オーストラリア、フィリピン、他UNDP、UNFPA等
議長…佐藤 隆

○準備委員会及び大会参加国等について
(準備運営委員会役員にフィリピンが加わった)

一九八二・十二
(十二・二一五)

「人口と開発に関するブラジル会議」

(於・ブラジル)

参加国…西半球諸国二十ヶ国

議 題…西半球諸国の開発・人口・婦人の地位・
子供の保護・移民の各問題について。

宣 言…各国に「人口と開発に関する国内議員委員会」を形成し、議題としてとりあげた諸問題の改善に向け、積極的に努力する。

一九八三・三
(三・七～九)

「元大統領・首相会議設立委員会」

(於…ウイーン、ホーフブルグ王宮)

主催…人口と開発に関するグローバル・コミッテイ
共催…国連開発計画(UNDP)
発起人メンバー…

日 本・福田赳夫元首相

ウイーン・ワルトハイム前国連事務総長

ルーマニア・マネスク元首相

セネガル・サンゴール前大統領

コロンビア・パストラーナ・ボレロ元大統領

チュニジア・ヌイラ元首相

オブザーバー…イギリス・ヒース元首相

第一回執行委員会…'83年5月東京で開催予定

本会議…'83年秋開催予定

一九八三・五
(五・十九～二十)

元大統領・首相会議執行委員会

(於…東京)

福田赳夫元首相

ワルトハイム前国連事務総長

ボレロ元コロンビア大統領

第一回本会議…'83年11月中旬オーストリアで開催
予定

<p>一九八三・七・七</p>	<p>一九八三・十 (十・十・十二)</p>
<p>財団法人アジア人口・開発協会理事会 厚生、外務、農林水産三省共管認可法人に拡大して 初の理事会で新たに次の十氏が理事に就任。</p> <p>〈人口・開発・食糧分野〉 理事…黒田 俊夫(日大人口研究所顧問) 〃…川野 重任(東大名誉教授) 〃…小林 和正(日大人口研究所教授)</p> <p>〈科学技術・エネルギー・資源分野〉 理事…本多 健一(東大工学部教授) 〃…森 一久(日本原子力産業会議専務理事) 〃…武田修三郎(東海大工学部教授)</p> <p>〈行政OB・官界〉 理事…内村 良英(元農林事務次官) 〃…翁 久次郎(元厚生事務次官) 〃…須之部量三(前外務事務次官)</p> <p>〈経 済 界〉 理事…房野 夏明(経団連総務部長)</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第二回準備運営委員会」 (於…バンコク)</p> <p>参加国…日本、中国、インド、フィリピン、 UNDP、UNFPA、IPPF 議長…佐藤 隆</p> <p>○大会参加国等について</p>

一九八三・十一
(十六、十八)

「元大統領・首相会議第一回総会」

(於…ウィーン、ホーフブルグ王宮)

主 催…人口と開発に関するグローバル・コミッティー
共 催…国連開発計画(UNDP)
召 集 者…福田赳夫

議 長…クルト・ワルトハイム(前国連事務総長)
事務総長…ブラッドフォード・モース(UNDP事務総長)
構成国…(二十六カ国)

○日 本…福田 赳夫

- 国 際 連 合…クルト・ワルトハイム
- カメルーン…アーマッド・アヒジョ
- イタリ ア…ジュリオ・アンドレオッティ
- ネパ ー ル…キルティ・ニデイー・ピスタ
- イギリ ス…ジェームス・キャラハン
- フ ラ ン ス…ジャック・シャバン・デルマ
- タ イ…クリマンサック・チョマナン
- ザ ン ビ ア…マティアス・マインツァ・チョーナ
- ハンガリー…イエノ・ホック
- オーストラリア…マルコム・フレージャー
- アルゼンチン…アルトゥーロ・フロンデシイ
- ス イ ス…クルト・フルグラ―
- レバノ ン…セリム・ホス
- ルーマニア…マネア・マネスキュー
- ジャマイカ…ミハエル・マンレ―
- チュニジア…ヘデイー・ヌイラ
- ナイジェリア…オルセグン・オバサンジョ
- モ ロ ッ コ…アハメッド・オスマン
- コロンビア…ミサエル・パストラナ・ボレロ
- ベネズエラ…カルロス・アンドレス・ペレ

	<p>○ポルトガルⅡマリア・ド・ルールド・ピンタシルゴ ○ユーゴスラビアⅡミチャ・リビチツチ ○西ドイ ツⅡヘルムート・シュミット ○セネガルⅡレオポルド・セダール・サンゴール ○スウェーデンⅡオラ・ウルステン</p>
<p>一九八四・二・十六</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第二回 運営委員会」 （於…ニューデリー） 参加国…日本、中国、スリランカ、インド、 オーストラリア 議長…佐藤 隆 ○第一回大会の具体的手順及び大会以降の展開につ いて</p>
<p>一九八四・二 （十七）二十</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第一回 大会」 開催地…インド・ニューデリー 会場…ビギャン・バワン（国際会議場） 参加者…三十一カ国、四十七機関…二百九十七名 (1)日本側出席者 1、名誉団長 福田 赳夫（衆・自） 2、団 長 佐藤 隆（ 〃 ） 3、副団長 井上 普方（衆・社） 4、 阿部 昭吾（衆・社民連） 5、 矢追 秀彦（衆・公） 6、 安孫子藤吉（参・自） 7、 柄谷 道一（参・民社） 8、 石井 一二（参・自） 9、 倉田 寛之（ 〃 ）</p>

<p>一九八四・二・二十</p>	
<p>(2) 議 長…バルラム・ジャカール(インド国会議長) 司 会…サット・ポール・ミッター(アジアフォーラム事務総長) 起草委員…石井一二 他五名</p> <p>(3) 主なる日程</p> <p>① 第一日目(二月十七日) 福田赳夫元首相(グローバル・コミッテイ会長)・歓迎挨拶 インデラ・ガンジーインド首相・歓迎挨拶 ヘルムット・シュミット西独前首相基調演説</p> <p>② 第二日目(二月十八日) 黒田俊夫博士「国家開発政策——人口と開発の新たな元」講演</p> <p>③ 第三日目(二月十九日) ランジット・アタバト・スリランカ厚生大臣 「スリランカ・住民参加」講演</p> <p>④ 最終日 ニューデリ宣言採択</p>	<p>「人口と開発に関するアジアフォーラム・各国代表者会議」 参加国…AFPPD公式参加国(十六カ国) UNDP・UNFPA・IPPF 議長…佐藤 隆 ○AFPPD活動方針と展望、今後の活動計画について</p>

一九八四・八
(八・六十四)

「国連・国際人口会議」

(於…メキシコ)

参加国…百四十九カ国

日本政府首席代表・湯川宏厚生政務次官

日本政府顧問団

田中龍夫(衆議院議員・自)
佐藤隆(衆議院議員・自)
水田稔(衆議院議員・社)
永井孝信(衆議院議員・社)
矢追秀彦(衆議院議員・公)
柄谷道一(参議院議員・民)
石井一二(参議院議員・自)
黒田俊夫(厚生省人口問題審議会委員)
安川正彬(厚生省人口問題審議会委員)

一九八四・八
(十五、十六)

「人口と開発に関する国際議員会議」(於…メキシコ)

参加国…六十カ国

日本代表団

福田赳夫(衆議院議員・自)
田中龍夫(衆議院議員・自)
佐藤隆(衆議院議員・自)
水田稔(衆議院議員・社)
永井孝信(衆議院議員・社)
矢追秀彦(衆議院議員・公)
柄谷道一(参議院議員・民)
石井一二(参議院議員・自)
三塚博(衆議院議員・自)

「第一回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」
(於…東京・外務省国際会議室)

主 催…財団法人・アジア人口・開発協会(A P D A)

出席者…○日本…福田赳夫、田中龍夫、佐藤隆、住

栄作、関谷勝嗣、鹿野道彦、桜井

新(衆・自民)

安孫子藤吉、倉田寛之、石井一二

(参・自民)

井上普方(衆・社会)

矢追秀彦(衆・公明)

高桑栄松(参・公明)

塩田 晋(衆・民社)

柄谷道一(参・民社)

阿部昭吾(衆・社民連)

○オーストラリア…B・J・グッドラック

○中国…許濂新、何理良

○インド…S・P・ミッター

○インドネシア…マルトノ移住大臣

○韓国…モーイム キン

○マレーシア…ラーマ オスマン交通副大

臣

○ネパール…ドロン シュム シャーラナ

○フィリピン…カルメンシート、レイエス

国務副大臣

○スリランカ…ランジット アタパト厚生

大臣

○タイ…ブンテイウム カマピラド運輸通

信副大臣

日程：第一日目（二月五日）

開会式 APDA 理事長・田中龍夫挨拶

内閣総理大臣・中曾根康弘（山崎拓内閣
官房副長官代理）

外務大臣・安倍晋太郎（森山眞弓外務政
務次官代理）

財団法人日本船舶振興会会長・笹川良一
（同財団理事長篠田雄次郎代理）

がそれぞれ祝辞

人口と開発に関するアジア議員フォーラ
ム事務総長・S・P・ミッター挨拶

感謝状贈呈 財団法人・日本船舶振興会
会長 笹川良一（二月五日夕、マツヤサ
ロンで贈呈）

国連人口活動基金事務局長 R・サラス

基調講演・国連人口活動基金事務局長

R・サラス

本会議・セッション I ランジット ア
タバト・スリランカ厚生大臣を議長に選
出

セッション II 問題提起

中国人口基礎調査

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

小林和正（日大人口研究所教授）

インド農村人口と農業開発調査

川野重任（東京大学名誉教授）

大内 穂（アジア経済研究所経済成長
調査部長）

<p>一九八五・四 (二十四～二十六)</p>	<p>タイ人口と開発基礎調査・社会福祉関連調査</p> <p>黒田俊夫(日大人口研究所名誉所長) 山本幹夫(帝京大客員教授・総合保健研究所長)</p> <p>日本の人口転換と農村開発</p> <p>岡崎陽一(厚生省人口問題研究所長) 阿部 誠(厚生省人口問題研究所人口資質部長)</p> <p>日本の農業・農村開発と人口——その軌跡(スライド)</p> <p>第二日目(二月六日) セッションⅢ・Ⅳ 総括討論</p> <p>第三日目(二月七日) セッションⅤ 閉会</p>
	<p>「元大統領・首相会議第三回総会」 (於…パリ国際会議場)</p> <p>名誉議長…福田赳夫元首相 議長…ワルトハイム前国連事務総長 事務総長…ブラッドフォード・モースUNDP事務総長</p> <p>参加国…二十四ヶ国</p> <p>○それまでの、三つの主要課題に加え、人口問題が取り上げられることに決定。</p> <p>○第四回総会は、一九八五年四月、日本で開催される予定。</p>

<p>一九八六・三 (三・三・五)</p>	<p>一九八五・五 (十三・十四日)</p>	
<p>「第二回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」 (於…東京・経団連国際会議場)</p> <p>主 催…財団法人・アジア人口・開発協会 (APDA)</p> <p>出席者…○日本 福田赳夫、田中龍夫、佐藤隆、住 栄作、鹿野道彦、桜井新 (衆・自民)</p> <p>安孫子藤吉、林寛子、石井一二 (参・自民)</p> <p>水田稔、土井たか子 (衆・社会)</p> <p>矢追秀彦 (衆・公明)</p> <p>高桑栄松、塩出啓典 (参・公明)</p> <p>柄谷道一 (参・民社)</p> <p>○中国 何理良</p> <p>○インド S・P・ミッタール、D・C・ジャ イン</p>	<p>「第二回人口と開発に関するインド議員会議」 (於…ニューデリー国際会議場)</p> <p>参加者数…約四百名</p> <p>○日本からは、佐藤隆代議士 (人口と開発に関するアジア議員フォーラム議長) が、開会式に来賓として出席、基調講演した。</p>	<p>○佐藤隆代議士 (人口と開発に関する世界委員会常任理事) が、特別講演を行ない、OBサミットで人類の生存と平和を脅かす「人口問題」を取りあげるよう進言。その結果、主要課題の一つにすることを決定。人口問題に関するタスクフォースを組織し、主幹に福田赳夫元首相が就任することになった。</p>

- インドネシアⅡマルトノ移住大臣
- 韓国Ⅱジャンスック・キム
- スリランカⅡP・M・Bシリル県大臣
- タイ プンテイウム・カマピラド運輸通
信副大臣

日 程…第一日目（三月三日）

開会式（司会 林 寛子）

APDA理事長・田中龍夫挨拶

外務大臣・安倍晋太郎（浦野侖興外務政
務次官代理）挨拶

国際人口問題議員懇談会会長・福田赳夫
歓迎挨拶

人口と開発に関するアジア議員フォーラ
ム事務総長・S・P・ミッター参加者
代表挨拶

国連人口活動基金事務局長 R・サラス
来賓挨拶

本会議…セッションI 住 栄作議員を議
長に選出

セッションI-1・2 問題提起

中国人口家族計画基礎調査

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

小林和正（日大人口研究所教授）

インド人口・開発基礎調査

嵯峨座晴夫（早稲田大学文学部教授）

タイ農村人口と農業開発調査

川野重任（東京大学名誉教授）

原 洋之介（東京大学東洋文化研究所

助教授）

バンコクの人口都市化と生活環境・福祉
調査

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

ネパール人口家族計画基礎調査

松本信雄（東京慈恵会医科大学教授）

大内 穂（アジア経済研究所経済成長
調査部長）

日本の人口都市化と開発

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

岡崎陽一（厚生省人口問題研究所長）

日本の都市化と人口（スライド）

セッションⅠ―3 討議

第二日目（三月四日）

セッションⅡ（議長 住栄作議員）

各国カントリレポート及び討議

セッションⅢ（議長 佐藤 隆議員）

総括討議

閉会式

第三日目（三月五日）

都内視察

<p>一九八六・五 (五・十二、十六)</p>	<p>「人口と開発に関するアフリカ国会議員会議 開催地…ジンバブエ・ハラレ市 参加国…三十九ヶ国 主催…人口と開発に関する国会議員世界委員会 ジンバブエ議会 *『ハラレ宣言』採択 ○アフリカの議会制度を持つ国は三十六ヶ国、 この内三十一ヶ国と議会制度を持たぬ国八ヶ 国がオブザーバーとして参加したが、これは アフリカにおいて過去開催された議員会議の 中で最大規模のもの。</p>
<p>一九八六・九 (九・二十六、十二)</p>	<p>ネパール人口事情視察議員団派遣 参加議員(計十名) 福田赳夫(名誉団長)、田中龍夫(団長)、 佐藤 隆、桜井 新、金子みつ、矢追秀彦、 安倍基雄、林 寛子、石井一二、高桑栄松 ○ネパールに発足したての人口・開発議員連盟 等との会議も行なわれた。</p>
<p>一九八六・十 (十・六、七)</p>	<p>「人口と開発に関するアフリカ議員カウンシル」発足 会議 開催地…ケニヤ・ナイロビ市 参加国…アフリカ十三ヶ国、他五ヶ国、他九機関 ○同年五月十六日付ジンバブエにて採択された 「ハラレ宣言」に基づき、アフリカ地域におけ る各国の人口・開発議員グループ間での意見 交換等の活動を調整・促進、また「ハラレ宣 言」をフォローする等のため同カウンシルを 正式に発足したもの。 初代議長には、マダガスカルジャン・ルイ・ ラモンドライアソア氏が就任。</p>

<p>一九八七・二 (二・二十三) 二十四</p>	<p>一九八六・十 (十・十七、十八)</p>
<p>「第三回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」 (於・バンコク・タイ国国会議事堂 エスカップ会議場) 主催…財団法人アジア人口・開発協会 (APDA) 出席者…○日本…福田赳夫、佐藤隆 (衆・自民) 林寛子、石井一二 (参・自民) 伊藤忠治 (衆・社会) 有島重武 (衆・公明) 阿部昭吾 (衆・社民連) ○中国…ヤン・レン・ヤン、何理良 ○インド…S・Pミッター、M・ブラシヤド ○インドネシア…マルトノ移住大臣 ○韓国…K・J・ドンク ○マレーシア…R・オスマン運輸副大臣 ○ネパール…D・S・ラナ、P・B・サポクタ ○シリア…H・サディック ○スリランカ…U・B・ウイジェクーン (ジャフナ自治大臣)</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム運営委員会」 (於・ジャカルタ) 参加国…日本、中国、スリランカ、インド、シリア、インドネシア、他八機関 議長…佐藤 隆 (日本) ○第二回AFPPD総会を一九八七年十月二十三日、北京にて開催することを正式に決定。</p>

○タイⅡプラソップ・R、M・L・トリド
シユス、V・ビトゥーン・O、プ
アングルト・W、プリンスク・L

日程…第一日目（二月二十三日）

開会式（於…タイ国会議事堂会議場）

開会の辞…ウクリット・M（タイ国会
議長）

主催者挨拶…佐藤隆（APDA副理事長）

来賓挨拶Ⅱ J・S・シン（サラスUNF

PA事務局長・代理）

来賓挨拶Ⅰ 福田赳夫（国際人口問題議員

懇談会会長）

主催国挨拶Ⅱ プラソップ・R（タイ国人

口問題議員懇談会会長）

本会議…セッションI 問題提起・質疑

応答

（於…エスカップ・会議場）

議長…

インドネシア 人口・開発基礎調査

黒田俊夫（日大人口研究所名誉所長）

インドネシア 農村人口と農業開発調査

原 洋之介（東大東洋文化研究所助教

授）

タイ 村落レベルでの人口と開発

ミツチャイ・V（PCDP事務局長）

第二日目（二月二十四日）

セッションI-2 問題提起・質疑応答

（於…エスカップ会議場）

	<p>一九八七・九 (九・二三)二十五)</p>
<p>現在及び将来の開発計画に関する年齢構造変動の政策的合意 ニボン・デババルヤ(エスカップ人口部部長) 日本の労働力人口と開発 黒田俊夫(日大人口研究所名誉所長) 日本の産業発展と人口(スライド・制作APDA) セッションII-1/2 各国カントリーレポート発表および討議 総括討議 閉会式</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第二回大会」 期 日…九月二十三日～二十五日 開催地…中国・北京市 会場…人民大会堂、崑崙ホテル国際会議場 参加者…二十九ヶ国、十六機関…約二百名 (1) 日本代表出席議員 名誉団長…福田 赳 夫(衆・自民) 団 長…佐藤 隆(衆・〃) 谷 津 義 男(衆・〃) 林 寛 子(参・〃) 田 代 由紀男(参・〃) 石 井 一 二(参・〃)</p>

副団長…井上普方(衆・社会)

城地豊司(衆・〃)

有島重武(衆・公明)

矢追秀彦(衆・〃)

高桑栄松(参・〃)

三治重信(参・民社)

阿部昭吾(衆・社民)

(2) 議長…佐藤隆(日本)

副議長…胡克實(中国)

〃…P・ラタナクーン(タイ)

〃…M・チョードウリー(バンングラデシュ)

起草委員…G・S・ヤジャン(インド)

ツアン・ツォングリー(中国)

矢追秀彦(日本)

R・ラモス・シャハニ(フィリピン)

B・グッドラック(オーストラリア)

(3) 主なる日程

① 開会式

*趙紫陽・中国首相、他の挨拶

*福田赳夫・日本国元首相の基調講演

② セッション

① アジアの人口と開発

② アジアの保健サービス・家族計画

③ 都市化

④ アジアの人口と食糧

⑤ 人口高齢化

③ AFPPD北京宣言採択

④ AFPPD規約採択

⑤ AFPPD役員改選(9ヶ国)

*議長には佐藤隆議員(日本)が再任された。

一九八七・九
(九・二六)二九

中国人口事情視察議員団派遣(山東省)

団長・有島重武(衆・公明)
谷津義男(衆・自民)
城地豊司(衆・社会)
高桑栄松(参・公明)
三治重信(参・民社)

他、随行者7名

*中国・国家計画生育委員会との協力で、山東省にて実施されている家族計画プロジェクトを視察。

一九八八・二一)三
(二・二九)三・二

「第四回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」

(於・クアラルンプール・マレーシア国会議事堂
パンパシフィックホテル・ボールルーム)

主催・財団法人アジア人口・開発協会(A P D A)
共催・マレーシア人口・資源・開発議員連盟

出席者・○日本||田中龍夫(衆・自)

林寛子、石井一二(参・自)

坂上富夫(衆・社)

有島重武(衆・公明)

三治重信(参・民社)

○オーストラリア||B・J・グッドラック

○中国||胡克実

○インド||J・R・グプタ

○韓国||K・J・ドンク

○ネパール||P・B・シャヒ

○ニュージーランド||S・デイビス

○シンガポール||S・サニフ

○スリランカ||R・アタバト

○シリアⅡG・タヤラ

○タイⅡプラソップ・R、チュムサイ・H

○マレーシアⅡA・H・A・バダウイ、P・

H・ラーマ・オスマン、A・

H・イブラヒム、Z・A・ジ

ン、M・ザカリア、I・M・

サイド、Z・M・ハッサン、

A・R・ベイカー、S・S・ス

ブラマニアム、M・T・イス

マエル、C・J・メン

日程…第一日目（二月二十九日）

開会式（於…マレーシア国会議事堂会議場）

主催者挨拶…田中龍夫（APDA理事長）

共催者挨拶…A・バダウイ（マレーシア

人口・資源・開発議員連盟

会長）

来賓挨拶…胡克實（AFP PD副議長）

来賓挨拶…J・S・シン（N・サディツ

クUNFPA事務局長・代理）

主催国挨拶…モハメッド・ザヒール（マ

レーシア国下院議長）

本会議…セッション I—1

問題提起・質疑応答

（於…パンパシフィックホテル・ポ
ールルームB）

中国—人口・開発基礎調査

黒田俊夫（日本大学人口研究所名誉
所長）

	<p>中国 ― 農村人口と農業開発調査 濱下武志（東京大学東洋文化研究所 助教授）</p> <p>マレーシア ― 都市化・人口移動・開 発</p> <p>K・サレイ（マレーシア経済研究所 所長）</p> <p>マレーシア ― 農業と農村開発 K・カチャ（農業大学副総長）</p> <p>アジア諸国の人口と農業政策 G・D・ネス（ミシガン大学教授）</p> <p>第二日目（三月一日）</p> <p>スライド「日本の人口移動と経済発展」 （APDA制作）</p> <p>セッションII</p> <p>各国カントリーレポート発表および討 議</p> <p>総括討論</p> <p>閉会式</p>

『アジア人口30億人の日』（於…東京プリンスホテル）
共催…人口と開発に関するアジア議員フォーラム、国

際人口問題議員懇談会、財団法人アジア人口

開発協会

主な出席者

（敬称略）

〔国會議員〕

- 福田 赳夫（衆・自民） 永野 茂門（参・自民）
- 田中 龍夫（衆・〃） 金子 みつ（衆・社会）
- 佐藤 隆（衆・〃） 有島 重武（衆・公明）
- 鹿野 道彦（衆・〃） 矢追 秀彦（衆・〃）
- 谷津 義男（衆・〃） 山田 英介（衆・〃）
- 石本 茂（参・〃） 高桑 栄松（参・〃）
- 林 寛子（参・〃） 中西 珠子（参・〃）
- 田代由紀男（参・〃） 三治 重信（参・民社）
- 石井 一二（参・〃） 阿部 昭吾（衆・社民）

〔来 賓〕

マレーシア国……ラーマ・オスマン上院議員
インド国……サット・ポール・ミッター

前上院議員

- 国連人口基金（UNFPA）事務次長功刀 達朗
- 国際家族計画連盟（IPPF）東アジア・東南ア
シア・太平洋理事
会会長ジョアン・
タンブ

〔国際機関〕

- 国連人口基金（UNFPA）広報渉外部長
ジョテイ・シン
- 国連人口基金（UNFPA）事業企画調整局長
安藤 博文

国連開発計画（UNDP）東京連絡事務所所長

石樽 利光

〔在日大使館〕

オーストラリア大使館 A・T・カルバート代理大使

〔官 界〕

外務省 金子 義和 国際連合局社会協力課長

厚生省 河野 稠果 人口問題研究所所長

厚生省 内野 澄子 人口問題研究所人口構造部長

総務庁 三浦 由己 統計局長

環境庁 森 幸男 企画調整局長

長谷川慧重 大気保全局長

〔学識経験者〕

黒田 俊夫 日本大学人口研究所名誉所長

川野 重任 東京大学名誉教授

安川 正彬 慶応大学経済学部教授

大内 穂 アジア経済研究所総合研究部主幹

武田修三郎 東海大学工学部教授

畑井 義隆 明治学院大学経済学部教授

吉田 長雄 アジア生産性機構事務局長

日程

第一部（アナウンスメント）

「アジア人口30億人の日」

人口と開発に関するアジア議員フォーラム議長

佐藤 隆

第二部（記念講演）

「30億人をとり囲む環境問題」（記念講演）

環境庁長官 堀内 俊夫

「アジアは30億人をどう支えるか」ミシガン大学教授

	<p style="text-align: right;">ゲイル・D・ネス</p> <p>第三部 記者会見</p> <p>第四部 レセプション</p>
<p>一九八八・ 十・十九～二十六</p>	<p>バングラデシユ人口事情視察議員団派遣</p> <p>団 長…中西 一郎（参・自民） 副団長…井上 普方（衆・社会） 田代由紀男（参・自民） 武村 正義（衆・自民） 平石磨作太郎（衆・公明） 大矢 卓史（衆・民社） （他随 行四名）</p> <p>○パンチドナにおける家族計画プロジェクト視察、人口・開発関係議員との合同会議等を行った。</p>
<p>一九八八・ 十一・二十八</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム運営委員会」（於東京）</p> <p>参加国…オーストラリア、中国、インド、日本、マレーシア、シリア、タイ、他二機関。</p> <p>議長…佐藤 隆（日本）</p> <p>○アジア人口30億人の日の行事の成果、今後の活動計画について。</p>

「第五回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」

(於 フィリピン国・マニラ PICC)

主催…財団法人アジア人口・開発協会 (APDA)

共催…フィリピン人口と開発国会議員委員会

出席者…

○日本…福田赳夫、田中龍夫、佐藤隆、武村正義 (衆・自)、関山信之 (衆・社)、矢追秀彦 (衆・公明)、阿部昭吾 (衆・社民)

○中国…胡克實

○インド…S・P・ミッタール、S・ジョシイ、V・

バーマ

○インドネシア…マックボン

○韓国…S・S・モック、L・J・ロール

○マレーシア…R・オスマン、Z・AB・ザアイン

○ネパール…T・J・タパ

○シリア…H・サディック

○タイ…プラソップ・R、トリトシユス・D、アアン

グラット・V

○フィリピン…L・R・シャハニ、T・アキノオレタ、

J・エストラダ、E・ヘレラ、O・メルカド、

S・ラスル

日 程…第一日目 (二月十七日)

開会式 (於…PICCルーム4)

開会の辞…T・アキノオレタ (フィリピン人

口・開発国会議員委員会副委員長)

共催者挨拶…L・R・シャハニ (フィリピン

人口・開発国会議員委員会委員長)

主催者挨拶…田中龍夫 (APDA理事長)

来賓挨拶…福田赳夫（人口と開発に関する国会議員世界委員会会長）

来賓挨拶…S・P・ミッター（AFPPD事務総長）

来賓挨拶…J・S・シン（N・サディックUNFPA事務局長・代理）

来賓挨拶…T・K・マングン（UNFPA地域事務所長）

基調講演…S・C・モソド（フィリピン国家経済開発庁長官）

本会議（於…PICCルーム11）

セッションI 人口と開発調査研究

中国——人口・開発基礎調査

黒田俊夫（日本大学人口研究所名誉所長）

フィリピン——農村における家族計画指導

J・フラビエ（国際農村再建研究所所長）

挨拶

佐藤隆（AFPPD議長）

スライド「日本の人口と家族」（APDA制作）

第二日目（二月十八日）

セッションII 21世紀に向けて——人口転換と経済社会開発

各国カントリーレポート及び討議

総括討論

閉会式

<p>一九八九・ 二・十九</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム運営委員会」(於 フィリピン・プラザホテル会議室) 参加国…中国、インド、日本、マレーシア、フィリピン、シリア、タイ 他三機関 ○AFPFDの長期展望及び婦人会議開催について</p>
<p>一九八九・ 九・十一～十二</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム運営委員会」開催。(於 東京) 参加国…オーストラリア、中国、インド、日本、マレーシア、スリランカ、シリア、タイ、他 UNFPA、GCPPD、IPPF。 議長…佐藤 隆(日本) ○AFPFD大会開催及び女性議員会議開催について。</p>
<p>一九八九・ 九・十三</p>	<p>「人口と女性の地位に関するアジア女性議員会議運営委員会」開催。(於 東京) 参加国…中国、インド、日本、マレーシア、フィリピン、シリア ○同会議開催について。</p>
<p>一九九〇・ 三・十二～十四</p>	<p>「人口と女性の地位に関するアジア女性議員会議」開催。(於 ニューデリー) 参加国…中国、インド、インドネシア、日本他、計25カ国、約百名参加。 ○日本側 広中和歌子(参・公明)が参加。</p>

<p>一九九〇・三・ 十八、二十一</p>	<p>インドネシア人口・開発事情視察議員団派遣 団長代理…桜井 新(衆・自民) 副団長…三治重信(参・民社) 伊藤忠治(衆・社会) 広中和歌子(参・公明) 専門家 黒田俊夫(日本大学人口研究所名誉所長) (他随員二名) ○バリにおけるバンジャールシステム及びジャカルタ における医療、農業開発の視察及び、人口・開発関 係議員との懇談を行った。</p>
<p>一九九〇・三・ 二十二、二十三</p>	<p>「第六回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会 議」 (於 インドネシア国 ジャカルタ・インドネシア国 国会議事堂、ボロブドゥールホテル会議室) 主催…財団法人アジア人口・開発協会(A P D A) 共催…インドネシア国人口・開発フォーラム 出席者…○日本…佐藤隆、桜井新(衆・自民)、三治重信 (参・民社)、阿部昭吾(衆・社民)、高桑栄松 (参・公明)、伊藤忠治(衆・社会) ○中国…胡克實 ○インド…S・P・ミッター、M・S・ラテール、 V・N・ガドギル ○韓国…K・M・チョー ○マレーシア…R・オスマン、I・アリ ○ネパール…T・J・タパ ○ニュージールランド…F・ガービック ○フィリピン…O・メルカド ○シンガポール…S・B・サニフ ○スリランカ…N・フェルナンド</p>

○タイⅡブラソップ・R

○インドネシアⅡB・スパングット、H・Y・モコギ
ンタ、W・カイルパン、S・イスモ
ノ、S・スミアルノ、P・ピントロ、
A・マندان、T・ノール・B・ス
ヨノ、B・ワルヨ

○インドネシア人口・開発フォーラム

E・サリム（人口・環境大臣）

H・スヨノ（国家家族計画調整委員会委員長）

日程・第一日目（三月二十二日）

スハルト大統領表敬

カリス・スフド国会議長表敬

開会式（於・インドネシア国国会議事堂・ブスタカ・

ロカ）

座長準備挨拶・ハルヨノ・スヨノ（国家家族計画調整

委員会委員長）

歓迎の辞・エミル・サリム（インドネシア国人口・環

境大臣）

開会挨拶・佐藤 隆（APDA副理事長）

挨拶・S・P・ミッター（AFPPD事務総長）

挨拶・J・S・シン（N・サディックUNFPA

事務局長・代理）

挨拶・カリス・スフド（インドネシア国国会議長）

本会議（ボルボドールホテル）

セッションI 人口と開発に関する研究

人口と開発基礎調査——ネパール

黒田俊夫（日本大学人口研究所名誉所長）

農村人口と農業開発調査——アジア6カ国の比較

原洋之介（東京大学東洋文化研究所教授）

<p>一九九〇・ 三・二十四</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム運営委員会」 （於…ジャカルタ・ボロブドゥールホテル） 参加国…中国、インド、日本、マレーシア、シリア、 タイ、他二機関 O A F P P D 第三回大会開催について</p>
<p>人口・開発におけるインドネシアの経験 ハルヨノ・スヨノ（国家家族計画調整委員会委員長） 日本の人口構造変動と開発——アジア的視点 黒田俊夫（日本大学人口研究所名誉所長） スライド、高齢化社会への日本の挑戦——生きがいのある老後を目指して（A P D A 制作） 第二日目（三月二十三日）</p>	<p>セツシヨンII 人口と開発——21世紀に向けての戦略 各国カントリーレポート及び討議 総括討論 ジャカルタ・アピールの採択 閉会式 閉会挨拶…佐藤 隆（A P D A 副理事長） エミル・サリム（インドネシア人口・開発 フォーラム会長、人口・環境大臣）</p>

<p>一九九〇・八・ 二十六、九・一</p>	<p>スリランカ人口・開発事情視察議員団派遣</p> <p>団 長 井上普方（衆・社会） 団長代理 桜井 新（衆・自民） 副団長 三治重信（参・民社） 田代由紀男（参・自民） 鹿熊安正（参・自民） 肥田美代子（参・社会） 高桑栄松（参・公明）</p> <p>○大統領表敬、スリランカ人口・開発議員連盟メンバーとの懇談及び母子保健家族計画クリニック等の視察を行った。</p>
<p>一九九〇・ 十・十五、十八</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム運営委員会」（於 バンコク）</p> <p>参加国…日本、中国、シリア、タイ、インド、オーストラリア</p> <p>議長…佐藤 隆</p> <p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム第三回大会」</p> <p>期 日…十月十五日、十八日</p> <p>開催地…タイ国バンコク</p> <p>会 場…タイ国国会議事堂 ドウシタニホテル</p> <p>参加者…二十一ヶ国、十二機関 一六一名</p> <p>（1）日本代表出席議員</p>

名誉団長・福田 赳夫

団 長・佐藤 隆 (衆・自民)

桜井 新 (衆・〃)

伊藤 忠治 (衆・社会)

東 祥三 (衆・公明)

清水嘉与子 (参・自民)

高桑 栄松 (参・公明)

三治 重信 (参・民社)

(2) 議 長・佐藤 隆 (日本)

副議長・サット・ポール・ミッター

(インド)

〃 王偉 (中国)

〃 ガッサン・タヤラ (シリア)

〃 レテイシア・ラモス・シャハニ (フィ

リピン)

起草委員・清水嘉与子 (日本)

アマール・ダツカ (シリア) ネーヴィ

ル・フェルナンド (スリランカ) デバ

キュル (タイ) マリアノ・ユロ (フィ

リピン) クマルディン・アムド (イン

ド) ウ・ティエピン (中国)

(3) 主なる日程

① 開会式

○ 福田赳夫。日本国元首相、佐藤隆 AFP PD 議長、ナフェイス・サディック UNFPA 事務局長
他の挨拶

○ プンチャナ・アタコール国会副議長の開会宣言

	<p>②セッション</p> <p>○全体セッション―「二十一世紀に於けるアジア人口と社会開発」</p> <p>○分科会</p> <p>「人口・環境・持続的開発」</p> <p>「保健―母子保健・家族計画」</p> <p>「女性の役割と地位」</p> <p>「高齢化と若年従続人口」</p> <p>○AFPDPバンコク宣言の採択</p> <p>○AFPDP会計報告</p> <p>○AFPDP役員改選（8ヶ国）</p> <p>議長には佐藤議員（日本）が再任された。</p>
<p>一九九一・二・二十四</p>	<p>「人口と開発に関するアジア議員フォーラム運営委員会」（於…ソウル・ウォーカーヒルホテル）</p> <p>参加国…日本、中国、インド、スリランカ、他三機</p> <p>関</p> <p>議長…佐藤 隆</p>
<p>一九九一・二・二十五―二十六</p>	<p>「第七回人口と開発に関する国会議員代表者会議」（於…韓国 ソウル・ウォーカーヒルホテル会議場）</p> <p>主催…財団法人アジア人口・開発協会</p> <p>共催…韓国準備委員会</p> <p>出席者…</p> <p>○日本…佐藤隆（衆・自民 APDA理事長）、水田稔（衆・社会）、東祥三（衆・公明）、阿部昭吾（衆・社民）、亀井久興（衆・無）、鹿熊安正（参・自民）、高桑栄松（参・公明）、広中和歌子（参・公明）、三治重信（参・民社）</p> <p>○中国…王偉、チェン・ミングァン</p>

○インド || S・P・ミッターール、S・プラサダ、

マヘショワラバ

○インドネシア || J・ナロ、K・バダルディン

○韓国 || J・B・パク、C・S・パク、J・チュン、S

・M・スウ、Y・S・ドウ、Y・K・アン、C・

S・ファン、Y・S・シン、S・O・カン、Y

・S・パク、J・H・ハム、B・C・チョイ、I

・H・ヨ、S・パク、K・S・シン、W・S・

ビュン、S・U・キム、S・Y・コー、S・B・

リ

○マレーシア || I・アリ

○パキスタン || N・J・パネザイ

○フィリピン || L・R・シャハニ、E・N・マテイ、

J・パラス

○シンガポール || S・B・サニフ

○スリランカ || N・フェルナンド、M・L・M・アボ

サリイ

日程・第一日目 (二月二十五日)

開会式 (於・ウォーカーヒルホテル国際会議場)

歓迎の辞・チョン・ビョン・パク (韓国児童・人口開

発議員連盟会長)

開会挨拶・佐藤 隆 (APDA理事長)

挨拶・N・フェルナンド (ブラソツプ・R・A F

PPD事務総長・代理)

挨拶・安藤博文 (N・サディック UNFPA事務

局長・代理)

セッション I 人口と開発に関する研究

人口と開発基礎調査—バングラデシュ

	<p>黒田俊夫（日本大学人口研究所名誉所長 農村人口と農業開発調査―フィリピン 川野重任（東京大学名誉教授） 人口と開発―韓国の経験 崔仁鉉（韓国保健社会研究院副院長） 日本の人口・開発・環境―アジアの経験― 黒田俊夫（日本大学人口研究所名誉所長） スライド「日本の環境・人口・開発」 （APDA制作）</p> <p>第二日目（二月二十六日） セッションII アジアの人口と開発問題―バンコク宣 言の達成方策 各国カントリーレポート及び討議</p> <p>全体討議 閉会式 閉会挨拶・チョン・スー・パク（韓国児童・人口・開 発議員連盟副会長）</p>

本協会実施調査報告書及び出版物

昭和58年度

1. 中華人民共和国人口家族計画基礎調査報告書
Basic Survey on Population and Family Planning
in the People's Republic of China (英語版)
生育率和生活水平关系中日合作調査研究报告書
(中国語版)

昭和59年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書
— インド国 —
Report on the Survey of Rural Population and
Agricultural Development in Asian Countries
— India — (英語版)
2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書
— タイ国 —
Report on the Basic Survey of Population and Deve-
lopment in Southeast Asian Countries
— Thailand —

3. 日本の人口転換と農村開発

Demographic Transition in Japan and Rural Deve-
lopment (英語版)

4. Survey of Fertility and Living Standards in Chinese
Rural Areas —Data— All the households of two
villages in Jilin Province surveyed by questionnaires
(英語版)

关于中国农村的人口生育率与生活水平的调查报告
— 对于吉林省两个村进行全戸面談調查的結果 —
— 统计編 — (中国語版)

5. スライド 日本の農業、農村開発と人口

— その軌跡 — (日本語版)

Agricultural & Rural Development and, Population
in Japan (英語版)

日本农业农村的发展和人口的推移 (中国語版)

Perkembangan Pertanian, Masyarakat Desa Dan
Kependudukan Di Jepang (インドネシア語版)

(以上4カ国版スライドは、日本産業教育スライドコ
ンクールにて優秀賞を受賞しました。)

昭和60年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書
——タイ国——
Report on the Survey of Rural Population and
Agricultural Development in Asian Countries
——Thailand——（英語版）
2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書
——インド国——
Report on the Basic Survey of Population and
Development in Southeast Asian Countries
——India——
3. 中華人民共和国人口・家族計画第二次基礎調査報告書
Basic Survey (II) on Population and Family Planning
in the People's Republic of China
生育率和生活水平关系第二次中日合作调查研究报
告书（中国語版）
4. ネパール王国人口・家族計画基礎調査
Basic Survey Report on Population and Family
Planning in the Kingdom of Nepal（英語版）

5. 日本の人口都市化と開発
Urbanization and Development in Japan（英語版）
6. バンコクの人口都市化と生活環境・福祉調査
——データ編——
Survey of Urbanization, Living Environment and
Welfare in Bangkok ——Data——
（英語版）
7. スライド
日本の都市化と人口（日本語版）
Urbanization and Population in Japan（英語版）
日本的城市化与人口（中国語版）
Urbanisasi Dan kependudukan Di Jepang
（インドネシア語版）

昭和61年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書
——インドネシア国——
Report on the Survey of Rural Population and
Agricultural Development in Asian Countries
——Indonesia——（英語版）

2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書
——インドネシア国——
Report on the Basic Survey of Population and
Development in Southeast Asian Countries
——Indonesia——（英語版）
3. 在日留学生の学習と生活条件に関する研究
—— 人的能力開発の課題に即して ——
4. 日本の労働力人口と開発
Labor Force and Development in Japan（英語版）
5. 人口と開発関連統計集
Demographic and Socio-Economic Indicators on
Population and Development（英語版）
6. スライド 日本の産業開発と人口
——その原動力・電気——（日本語版）
Industrial Development and Population in Japan
——The Prime Mover-Electricity——（英語版）
日本の产业发展与人口
——其原动力-曳电——（中国語版）
Pembangunan Industri dan kependudukandi Jepang
——Penggerak Utama-Tenga Listrik——
（インドネシア語版）

7. ネパール王国人口家族計画第二次基礎調査
Complementary Basic Survey Report on Population
and Family Planning in the kingdom of Nepal

昭和62年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書
——中華人民共和国——
Report on the Survey of Rural Population and
Agricultural Development in Asian Countries
——China——（英語版）
2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書
——中華人民共和国——
Report on the Basic Survey of Population and
Development in Southeast Asian Countris
——China——（英語版）
3. アジア諸国からの労働力流出に関する調査研究報告書
——フィリピン国——
4. 日本の人口と農業開発
Population and Agricultural Development in Japan
（英語版）

2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書
——インドネシア国——
Report on the Basic Survey of Population and
Development in Southeast Asian Countries
——Indonesia——（英語版）
3. 在日留学生の学習と生活条件に関する研究
—— 人的能力開発の課題に即して ——
4. 日本の労働力人口と開発
Labor Force and Development in Japan（英語版）
5. 人口と開発関連統計集
Demographic and Socio-Economic Indicators on
Population and Development（英語版）
6. スライド 日本の産業開発と人口
——その原動力・電気——（日本語版）
Industrial Development and Population in Japan
——The Prime Mover-Electricity——（英語版）
日本の产业发展与人口
——其原动力-曳电——（中国語版）
Pembangunan Industri dan kependudukandi Jepang
——Penggerak Utama-Tenga Listrik——
（インドネシア語版）

7. ネパール王国人口家族計画第二次基礎調査
Complementary Basic Survey Report on Population
and Family Planning in the kingdom of Nepal

昭和62年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書
——中華人民共和国——
Report on the Survey of Rural Population and
Agricultural Development in Asian Countries
——China——（英語版）
2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書
——中華人民共和国——
Report on the Basic Survey of Population and
Development in Southeast Asian Countris
——China——（英語版）
3. アジア諸国からの労働力流出に関する調査研究報告書
——フィリピン国——
4. 日本の人口と農業開発
Population and Agricultural Development in Japan
（英語版）

5. ネパールの人口・開発・環境
Population, Development and Environment in Nepal
(英語版)

6. スライド
日本の人口移動と経済発展 (日本語版)
The Migratory Movement and Economic Development in Japan (英語版)
日本の人口移動と经济发展 (中国語版)
Perpindahan Penduduk Dan Perkembangan Ekonomi Di Jepang (インドネシア語版)

7. トルコ国人口家族計画基礎調査

昭和63年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書
——ネパール国——
Report on the Survey of Rural Population and Agricultural Development in Asian Countries
—— Nepal —— (英語版)

2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書
——中華人民共和国——

Report on the Basic Survey of Population and Development in Southeast Asian Countries
——China—— (英語版)

3. アジア諸国からの労働力流出に関する調査研究報告書
——タイ国——

4. 日本の人口と家族
Population and the Family in Japan (英語版)

5. アジアの人口転換と開発——統計集——
Demographic Transition and Development in Asian Countries ——Overview and Statistical Tables——
(英語版)

6. スライド
日本の人口と家族 (日本語版)
Family and Population in Japan
——Asian Experience—— (英語版)
日本の人口と家庭 (中国語版)
Penduduk & Keluarga Jepang (インドネシア語版)

7. ペルー共和国人口家族計画基礎調査

平成元年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書
——バングラデシュ国——
Report on the Survey of Rural Population and
Agricultural Development ——Bangladesh——
(英語版)
2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書
——ネパール国——
Report on the Basic Survey of Population and
Development in Southeast Asian Countries
——Nepal—— (英語版)
3. アジア諸国からの労働力流出に関する調査研究報告書
——マレーシア国——
4. 日本の人口構造変動と開発
——高齢化のアジア的視点——
Structural Change in Population and Development
—— Japan's Experience in Aging —— (英語版)
5. スライド
高齢化社会への日本の挑戦
——生きがいのある老後を目指して—— (日本語版)

Aging in Japan ——Challenges and Prospects——
(英語版)

迈入高齢化社会的日本正面临挑战
——追求具生命意义的老年生涯—— (中国語版)
Tantangan Masyarakat Lanjut usia Jepang
(インドネシア語版)

6. アジア諸国の農業開発 ——5カ国の比較——
Strategic Measures for the Agricultural Development
——Comparative Studies on Five Asian Countries——
(英語版)

平成2年度

1. アジア諸国の農村人口と農業開発に関する調査報告書
——フィリピン国——
Report on the Survey of Rural Population and
Agricultural Development ——Philippine——
(英語版)
2. 東南アジア諸国等人口・開発基礎調査報告書
——バングラデシュ——
Report on the Basic Survey of Population and
Development in Southeast Asian Countries
——Bangladesh—— (英語版)

平成3年3月31日発行(季刊)

「アジア 人口と開発」 №36

発行者 佐藤 隆

発行所 財団法人 アジア人口・開発協会

〒100 千代田区永田町2-10-2

永田町TBRビル710号

TEL 03(3581)7770(代表)

FAX 03(3581)7796